

中学校社会科学学習指導案

庄原市立比和中学校
教諭 山岡 哲朗

1 分野 公民的分野

2 学年 第3学年

3 単元名 「社会保障制度の在り方」

4 単元について

(1) 単元観

今回の学習指導要領の改訂では、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習を一層重視することが示され、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を形成するため、対立と合意、効率と公正などを取り上げることが示された。対立と合意とは、物事の決定までの過程を示す概念的枠組みであり、効率と公正とは、物事の決定をする際の判断基準を示す概念的枠組みのことである。公民的分野の学習内容は、これらの概念的枠組みを用いて、政治、経済、国際関係に関する諸事象をとらえさせ、事象の理解をより一層深めさせるようになっている。

本単元は、国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割を理解させるとともに、現在の財政の現状と課題などについて考察させることをねらいとしている。国や地方公共団体の財政は国民福祉の観点に立って行われるべきものであるが、少子高齢社会の進展から財政支出の要望が広範多岐にわたり、無限ではない財源の観点から、その要望すべてを満たしていくことはとても難しい。そのことを踏まえた上で、財源の配分については、「無駄をなくす」という「効率」の視点とともに、「できるだけ平等に」という「公正」の視点を持ちながら考えていく必要がある。本単元では、少子高齢社会における社会保障制度の充実とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか、税の負担者として自分の将来とかがかわらせて考えさせていきたい。

(2) 生徒観

本学年の生徒の平成22年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果を見ると、「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか。」の質問では、71.5%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が日常的に起きている社会的事象に対して興味を持っていると考えられる。一方、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりするのは難しいと思いますか。」という質問に対して、64.3%の生徒が難しいと回答をしており、自分の考えをまとめたり、説明することを苦手としている生徒が多いと考えられる。また、経済学習に関しては、価格の決定など身近な経済活動についてはある程度理解できていても、国や地方公共団体の財政など抽象度の高い内容については、基礎的・基本的な知識の定着が十分でない生徒も一部に見られる。

(3) 指導観

指導にあたっては、第一次で「部活動における体育館使用のルールを決める」という身近な事例を通して、対立と合意、効率と公正の概念的枠組みを習得させる。第二次では、第三次の考察において必要な我が国の社会保障制度や国家財政の現状に関する基礎的・基本的な知識を習得させる。その際、新聞やテレビのニュースなどで話題となっている具体的な事象を取り上げることで、興味・関心を高めながら学習に取り組ませていきたい。第三次では、第一次で習得した概念的枠組みや第二次で習得した知識を活用して、介護保険制度を具体的事例として取り上げ、社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランスについて考察させる。その際、用いる資料として、数値的なものが示されている表やグラフなどの統計資料を活用させるとともに、地域の身近な人々の意見などを紹介して自分たちが直接的にかかわる問題であることを認識させる。また、考察させる場面では、個別に考察する時間を確保することで、まずは自分の考えをしっかりとまとめさせ、その後、小グループで各自の意見を交流させ、見方や考え方が多面的・多角的なものになっていくようにする。意見交流においては、ホワイトボードなどを利用しながら、文字だけでなく、表やグラフのデータを根拠として活用したりすることで、自分の考えを相手にわかりやすく説明するための工夫をさせていく。

5 単元の目標

対立と合意、効率と公正などの概念的枠組みを理解し、それらを活用することを通して、少子高齢社会における社会保障制度の在り方について考察する。 【学習指導要領の内容項目(1)イ、(2)イ】

6 単元構成

単元「社会保障制度の在り方」(全4時間)

- | | | |
|---|-------------------------|-----------|
| 1 | ルールの決め方 | (1時間) |
| 2 | 我が国の社会保障制度と国家財政の現状 | (2時間) |
| 3 | 社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランス | (1時間)【本時】 |

7 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①社会生活における物事の決定の仕方、ルールの意義に対する関心を高め、それらを意欲的に追究している。	①「対立と合意」の視点から論点を明確にするるとともに、「効率と公正」の視点から合意の妥当性について考察し、適切に判断している。 ②社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランスについて、様々な資料を適切に選択して活用し、考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	①日本国憲法をはじめとした法に関する資料の中から、社会保障の考え方についての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 ②国の経済活動に関する資料の中から、財政の在り方についての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。	①日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解している。 ②社会保障費の増加が、財政赤字の増大の一つの要因となっていることを理解している。

8 単元の指導計画

次	時	学習内容	評価				評価規準	評価方法
			関	思	技	理		
一	1	○ルールの決め方 「対立と合意」、「効率と公正」という概念的枠組みを習得する。	◎	○			ア①社会生活における物事の決定の仕方、ルールの意義に対する関心を高め、それらを意欲的に追究している。 イ①「対立と合意」の視点から論点を明確にするるとともに、「効率と公正」の視点から合意の妥当性について考察し、適切に判断している。	ワークシート 行動観察
二	2	○我が国の社会保障制度 我が国の社会保障制度に関する基礎的・基本的な知識を習得する。			○	◎	ウ①日本国憲法をはじめとした法に関する資料の中から、社会保障の考え方についての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 エ①日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解している。	ワークシート 行動観察
	3	○我が国の国家財政の現状 我が国の国家財政の現状について基礎的・基本的な知識を習得する。			◎	○	ウ②国の経済活動に関する資料の中から、財政の在り方についての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 エ②社会保障費の増加が、財政赤字の増大の一つの要因となっていることを理解している。	ワークシート 行動観察
三	4	○社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランス 【本時】 習得した概念的枠組みや基礎的・基本的な知識を活用して考察し、自分の考えを表現する。		◎			イ②社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランスについて、様々な資料を適切に選択して活用し、考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	ワークシート 行動観察

9 本時の展開

(1) 本時の目標

社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランスについて、対立と合意、効率と公正の概念的枠組みを活用して考察し、意見交流を通して、自分の意見をまとめる。

(2) 学習の展開

学習内容・学習活動 発問(■)・生徒の反応(□)	指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
<p>●導入</p> <p>1 前時までの振り返り</p> <p>■一次、二次で学習したことをもう一度確認する。</p> <p>□対立と合意、効率と公正</p> <p>□社会保障制度に関する基本的な知識</p> <p>□財政に関する基本的な知識</p> <p>2 本時のめあての確認</p> <p>■今後の介護保険制度の在り方について、対立と合意、効率と公正の視点から考えてみよう。</p>		
<p>【本時のめあて】 今後の介護保険制度がどうあるべきか、対立と合意、効率と公正の視点から考え、自分の意見をまとめてみよう。</p>		
<p>●展開 1</p> <p>3 対立点の把握</p> <p>■介護保険制度について、対立する点はどのようなところだろうか。</p> <p>□増加することが予想される介護サービスにかかる費用を、本人・被保険者・政府の3者がどのように負担すべきか。</p> <p>4 視点の整理</p> <p>■介護保険制度を維持していくためにはどうしたらよいか。</p> <p>【本人の負担】</p> <p>□サービスを受ける本人の負担を増やす。</p> <p>【被保険者の負担】</p> <p>□被保険者の負担を増やす。</p> <p>□40歳未満も保険料を負担する。</p> <p>□40歳～64歳までの保険料を上げる。</p> <p>□65歳以上の保険料を上げる。</p> <p>【政府の負担】</p> <p>□政府の負担を増やす。</p> <p>□税率を上げる。(消費税5%→10%)</p> <p>□歳出の無駄を縮小し、社会保障費</p>	<p>・意見が出にくければ、既習事項を確認させる。 (負担は、本人・被保険者・政府の3者)</p> <p>・意見が出にくければ、教師側から対象年齢や保険料といった考察の観点を示す。</p> <p>・意見が出にくければ、教師側から歳入や歳出といった考察の観点を示す。</p>	

にまわす。

●展開2

5 立場の選択

■3つの方法から、自分の意見に一致するものを選び、その理由について考えてみよう。

□本人の負担を増やす。

□被保険者の負担を増やす。

□政府の負担を増やす。

6 意見の交流

■それぞれのグループに分かれて意見を交流し、出た意見をまとめてみよう。

7 全体交流

■それぞれのグループでまとめた意見を発表してみよう。

8 意見の再考

■それぞれのグループの意見を聞いてみて、もう一度、自分の意見をまとめてみよう。

9 意見の表明

■自分の意見を発表してみよう。

●まとめ

10 本時のまとめ

■医療保険や年金制度など、他の社会保障制度についても考えてみよう。

■歳入と歳出のバランスをとるために、他にどのような手段があるか、考えてみよう。

・個人で自分の意見に一致する立場を選び、黒板にネームプレートを貼らせる。

・最初は、個人で理由を考えさせる。

・同じ意見を持つ3グループに分かれて意見交流をさせる。

・生徒が選択しない立場があったら、教師がその役割を果たす。

・1人1回は必ず発言するようにさせる。

・他の人の意見を否定させないようにする。

・ホワイトボード等を使用しながら、わかりやすく発表させる。

・「効率と公正」の視点から、自分の意見について、再度見直させる。

・自分の意見の理由を、他の意見の理由を参考にして、詳しく書かせる。

・個人で自分の意見に一致する立場を選び、黒板にネームプレートを貼らせる。

・それぞれの立場について、数名発表させる。

イ②

社会保障制度の充実と財政赤字の縮減とのバランスについて、様々な資料を適切に選択して活用し、考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。

・ワークシート

・行動観察